

研究課題： レセプトデータダウンロード方式を利用したがん診療施設の医療水準の
評価に関する研究

課題番号： H18ーがん臨床ー一般ー017

研究代表者： 国立がんセンター がん対策情報センター 情報システム管理課
システム開発室長
石川ベンジャミン光一

1. 本年度の研究成果

1) レセプトデータダウンロード方式を利用したデータ分析に関するプログラム開発

平成20年度の厚生労働省DPC調査に対応したデータ読み込み・エラーチェックプログラムを開発した。また、分析に際しては、これまでの入院単位での分析に追加して、複数回の入院データをリンクし、患者単位で集計を実施できるように変更を行った。

2) レセプトデータダウンロード方式を利用したデータ分析用マスタの整備

詳細な診療内容の分析を可能にするためのレセプト電算コードに基づく分析用マスタについて、平成20年4月の診療報酬改定に伴うDPC分類の変更と、新規薬剤・技術等の追加を行った。

3) レセプトデータダウンロード方式による施設のカバー率に関する検討

平成20年5月9日のDPC評価分科会で公開された平成19年度厚生労働省調査(以下：厚労省DPC調査)結果データについて再集計を行い、がん診療連携拠点病院による臓器別症例数のカバー率を明らかにした。その結果、①平成20年4月時点でのがん診療連携拠点病院351のうち、304施設(87%)が厚労省DPC調査に参加しており、厚労省DPC調査参加病院1,428施設の22%を占めること、②主要ながんの疾患別(DPC6桁分類別)退院患者数では41~72%を占めること、などが明らかになった(表1)。こうした結果から、がん診療施設の医療水準の評価に当たっては、拠点として指定されている施設以外のデータについても収集・分析する必要性があることが示された。

4) 厚労省DPC調査結果の都道府県別解析

厚労省DPC調査を都道府県別に再集計した結果からは、治療実施施設の数が限定されており、二次医療圏の範囲では実質的には提供できていない治療がある可能性が示された。こうした結果からは、各医療圏における人口数およびその性・年齢構成などに応じた需要に基づいた拠点病院機能の評価が必要であることが示唆された。

5) レセプトデータダウンロード方式を利用した医療水準の評価

以上の知見を基に、本研究ではレセプトデータダウンロード方式による厚労省DPC調査準拠データを利用することにより測定することができる、医療水準の評価指標の候補案をとりまとめた。

表1. 平成 19 年厚生労働省 DPC 調査データに占めるがん診療連携拠点病院の症例数

がん診療連携拠点病院		病院数および症例数			拠点病院の占める割合		
DPC 制度および DPC 調査への参加		小計	(再掲) DPC 対象	(再掲) DPC 準備	小計	(再掲) DPC 対象	(再掲) DPC 準備
病院数		318	151	167	22%	11%	12%
疾患別 退院患者数	脳	8,107	5,252	2,855	55%	36%	19%
	頭頸部	11,448	6,984	4,464	72%	44%	28%
	肺	60,928	33,195	27,733	55%	30%	25%
	食道	11,756	6,474	5,282	66%	36%	30%
	胃	30,847	14,618	16,229	49%	23%	26%
	大腸	26,068	12,035	14,033	41%	19%	22%
	直腸肛門	16,643	7,729	8,914	45%	21%	24%
	肝・肝内胆管	42,049	24,131	17,918	50%	29%	21%
	膵臓、脾臓	9,046	5,306	3,740	60%	35%	25%
	乳房	23,870	12,245	11,625	54%	27%	26%
	膀胱	14,635	7,672	6,963	50%	26%	24%
	前立腺	25,963	13,430	12,533	47%	24%	23%
	卵巣・子宮附属器	18,148	10,150	7,998	63%	35%	28%
	子宮頸・体部	23,258	13,399	9,859	65%	37%	27%
	急性白血病	5,185	3,413	1,772	66%	44%	23%
非ホジキンリンパ腫	16,309	9,011	7,298	67%	37%	30%	

2. 前年までの研究成果

- 1) データ収集に向けた調査設計とデータ管理のための基盤技術・環境の整備
- 2) サンプルデータを利用した分析手法の開発
- 3) 地域内受療動向についての集計資料の作成
- 4) がん診療連携拠点病院の地域内分布についての集計資料の作成

3. 研究成果の意義および今後の発展性

本研究の実施により、レセプトデータダウンロード方式データを利用してがん診療施設の医療水準を評価するための基盤が整備された。この方法論を利用することにより地域がん診療連携拠点病院を中心としたがん専門診療施設における医療水準を評価する上で有用な、以下のような基礎資料の作成が可能となると期待される。

- 1) 各施設におけるがん種別・治療法別の症例数と入院日数、診療報酬点数
- 2) 各施設におけるがん種別・治療法別の化学療法レジメンの標準化状況
- 3) 各施設におけるがん種別・治療法別の画像診断検査の実施状況
- 4) 各施設における緩和医療の実施状況と使用薬剤の組み合わせ
- 5) 二次あるいは三次医療圏内のがん診療に対する各施設の寄与率

6) 上記1)~5)の資料を利用した各施設の医療水準についての評価指標の提案

上記のような資料は、国立がんセンターがん情報サービスを通じて公開・提供し、がん診療連携拠点病院の相談支援センターにおける業務等で利用することが可能である。こうしたがん診療に関するデータの公開を通じて医療の透明化が進展することは、わが国のがん医療水準の均てん化に寄与し、国民の保健医療福祉の向上にも結びつくものと期待される。

4. 倫理面への配慮

本研究の実施にあたっては個人情報保護に十分配慮し、匿名化済みのデータを収集するとともに、構築したデータベースからは個人の特定ができない方式を採用した。また、構築したデータベースには施設名も匿名化した形で保存することとした。なお、本研究は診療記録をレトロスペクティブに収集するものであり、研究の遂行に伴って新たに患者に診療上の不利益、危険性が発生することはない。

5. 発表論文等

1. 石川ベンジャミン光一, 松田晋哉. 厚生労働省平成 19 年度DPC調査データに基づく病院の診療実績一覧. 東京;じほう, 2008.

6. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③最終卒業校・卒業年次・学位及び専攻科目	④所属研究機関及び現在の専門(研究実施場所)	⑤所属研究機関における職名
石川ベンジャミン光一	研究基盤の構築とデータ管理、調査参加施設との調整、がん化学療法・緩和医療についての薬剤使用パターン等の分析、医療水準評価手法の開発	東京大学大学院医学系研究科・平成7年卒・博士(保健学)・保健医療情報学	国立がんセンター 医療経済学・医療情報学	室長
伏見 清秀	医療圏内のがん診療に対する各施設の寄与率、および診療プロセスの解析と評価	東京医科歯科大学医学部・昭和60年卒・医学博士・内科学	東京医科歯科大学大学院 医療経済学・医療情報学	准教授
藤森 研司	放射線科診療プロセスの解析と評価	北海道大学医学部・昭和59年卒・医学博士・放射線科学	北海道大学病院 医療マネジメント 寄附研究部門・ 病院管理学	特任准教授